

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2514号 2020年07月20日（月曜日）

《 Is NASDAQ joining rolling Ws ? 》

むろん、どの程度の期間続くかは分かりません。しかしマーケットを見ていて「興味深い」と思ったのは、このニュースで「rolling Ws（あえて訳せば「横ばい相場」）の例外」として取り上げてきたアメリカのハイテク株（NASDAQ や同 100 に象徴される）にも、その兆候が出てきたことでしょうか。特に先週の後半はこれら指数に珍しく目立った動きが見られず、全体的に「小動き」という印象だった。

内部要因として台頭しているのは、やはり高値警戒感でしょう。コロナ禍でも、そして時にコロナ禍故に業績を拡大できるし実際に業容を伸ばしていると言っても、それを織り込んだ上での今の相場水準です。天まで駆け上る相場はない。先週は珍しく「ダウ高・NASDAQ 安」になる日もあった。今週はこの米ハイテク株の行方が一つの焦点です。一度下を試すのか、どこで新しい買い物が入るのか。まだ買いたい人は多いでしょうから、あまり深く、長く下を試す印象はない。

ドル・円相場や原油相場、それに債券相場を含めて、今は各種マーケットに方向感のない「rolling Ws 相場」が多い。世界的に低インフレ・低金利で金利差がない。資本が動く要因に乏しい。あるとしたら政治要因。そうした中であってNASDAQ に象徴される米ハイテク株の展開は大きくて目立った。このマーケットも静かになってしまうと、市場の人間としてはちょっとがっかりなところもある。これまでの上げ幅の大きさ故に、しばらく足取りが重くなっても自然でしょう。

日本を含めて各種マーケット全体の重しになっているのは、一つはやはり新型コロナウイルスの感染者の世界的増加です。一部では「激増」といっても過言ではない事態が起きている。アメリカでは日々の感染者の数がついに7万を超えた。ブラジルでもインドでも感染者は激増している。WHOによれば、18日の土曜日は全世界で感染者の数が一日で26万人増えたという。過去最高。世界の感染者は全体で1400万人に達し、死者の数は合計60万人と推計される。

しかし実際はもっと多いでしょう。カウントされていない感染者、死者は世界を見れば公表数字以上に多いと推察される。アメリカではテキサス州などで医療崩壊の危機が叫ばれている。フロリダの感染者の数も多い。そうした中で、経済活動に再び規制をかける動きが表面化している。日本でも日々の感染者の全国的増加が連日報道されている。連日のトップニュースだ。

筆者が注目しているのは、幸いなことですが死者が一時よりは増えていないこと。以前も少し書きましたが、特に日本に特徴的で感染者は大きく増えても、死者ゼロの日が最近が多い。昨日は一人だったかな。300人（新型コロナウイルス関連と認定された）を前に足踏み状態。その原因については7月06日の号（2512号）で書きましたから、繰り返しません。

しかし「感染者の数」は、世界で最も報道される数字。なので消費者に与える心理的・経済的影響も大きい。これについて筆者は、「新型コロナウイルスの感染者は良くて高止まり、より大きな可能性としては増加が続く」と予測しています。日本においてもそうです。

何故かという、例えば日本。日本では歩く時や電車の中では大部分の人がマスクを着用している。しかし若者に限らず親しい人達の複数人による会合の席では、参加者がとてもとても「コロナ時代に合い相応しい行動」を取っているとは言えない。今週も街の人々の動きを見て改めてそう思いました。

コロナ禍故に普段疎遠だからかも知れないが、そうした場になると盛り上がり顔が接近させ、そして大声で喋っているケースが多い。見られるのは「コロナなんて怖くない症候群」です。最近人気のスポットである銀座のコリドー街などもそうした風景がこの土日でも見られた。「これでは感染は広がるな」と思うシーンの連続だった。多分それは全国的な現象だと思う。故に大阪でもそうですが、感染者が増えている。決して東京から感染が広がったと言うだけではない要因がある。世界ではこの傾向がもっと明確です。

人々の油断の背景の一つは、「死者が増えていない」ということにあるかもしれない。若者にとっては「罹患しても我々は大丈夫」という心理。としたら、若者の間でも感染者・死者が増えて、再び全国的に警戒心が強まらなければ感染者の数は減らないような気がする。マスクをしない、忌避する人が多い欧米ではなおさらです。「公共の場でのマスク着用」が義務化される国や州が増えているのですが、その点がアメリカでは“論争”になっている。それが世界の現実です。

《 Third day of wrangling over huge EU recovery plan 》

ユーロ相場の先行きにも影響する EU 首脳会議は、予定の土曜日まで二日間の日程では終わらずに日曜日も討議を続行、この原稿を書いている現在まだ続いている。提案されている総額 7500 億ドルの復興基金のうち、返済不要の補助金と返済が必要な融資の比率が一番の争点。打撃の大きな南周りのイタリアやスペインなどは補助金の割合を高くして欲しいと要求。しかしオランダやオーストリアなどの北の加盟国は、そもそも復興基金の規模が大きすぎると主張し、それを許容するにしても融資の比率を高くすることを要求。

EU は当初補助金 5000 億ドル、融資 2500 億ドルを示した。これに南欧諸国は賛同。しかし北欧諸国は補助金の割合を 3500 億ドルに減らし、返済の必要がある融資の部分を増やすように主張している。議長国のドイツなどが調停に当たっているが、双方の立場はまだかけ離れていて、今回は合意を諦めて月内に再び首脳会談を開く可能性があるとも伝えられている。頓挫はないだろうが、ユーロ相場には響く可能性がある。

今週の主な予定は以下の通り。

07月20日（月曜日）	6月15、16日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨 6月貿易統計
07月21日（火曜日）	6月消費者物価 6月工作機械受注(確報値) 20年国債入札 米6月シカゴ連銀全米活動指数
07月22日（水曜日）	「Go To トラベル」キャンペーンが東京発着除外で開始 米5月FHFA住宅価格指数 米6月中古住宅販売件数
07月23日（木曜日）	海の日で休場 韓国4~6月期GDP トルコ中銀金融政策決定会合 米6月CB景気先行総合指数
07月24日（金曜日）	スポーツの日で休場 米6月新築住宅販売件数

米国では今のままでは7月末に失業給付の増額措置が打ち切れ、月400億ドル(約4.3兆円)の個人所得が消失する。アメリカ議会とトランプ政権は「新たな景気刺激策」を策定中と伝えられ、その中味が注目される。日本では22日に観光支援事業の「Go To トラベル」キャンペーンが東京発着を対象外にしてスタートする予定だが、この週末の世論調査などでは「時期尚早」との意見が強いようだ。

経済指標は21日に日本で6月工作機械受注の確報値。22日に米6月中古住宅販売件数、23日に米6月CB景気先行総合指数が発表される。ワクチン開発に関しては、第1段階の臨床試験で被験者全員に抗体が確認できた米モデルナの次の段階の試験が27日に再び始まる。ジョンソン・エンド・ジョンソンなども開発スケジュールを前倒ししている。開発競争も激化している。それぞれの報道に各市場は反応しそう。ワクチンの開発進展は、伝統的な接触産業にとって朗報となる。

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。相変わらずのうっとうしさ。東京は日曜日にやや綺麗な晴れ間が見られましたし、今朝もお日様は見える。しかし今後の天気予報を見ると、またまた曇りや雨が続く一週間。早く気分転換が出来るようなはっきりした天候にならないかなと思っっているのですが、どうやら既に梅雨明けした沖縄の状況が本土に来るのにはまだ時間がかかる様子。当然九州南部から梅雨明けしてくるのですが、関東地方に来るのは8月にな

ってからとか。まだ10日もあります。長い。

将棋の藤井七段がついにタイトルを獲得、棋聖になった。コロナ感染拡大初期の対局がなかった時期に、「自分の将棋を見つめ直す時間が出来た」ということでAIなどを使ってもう一度自分の将棋の原点に立ち返ったのでしょ。一段と強くなった様子。対局した渡辺二冠に「負け方がどれも想像を超えてるので、もうなんなんだろうね、という感じです」(新聞記事)とまで言わせた。雨、コロナとどちらかという気が滅入るニュースが多い中での17歳の棋聖の誕生。

もともと詰め将棋の若き名人として名を馳せた人で、終盤には強い。序盤に課題ありと言われていたそうですが、それを対局がない3ヶ月ほどの間にAIを使って勉強した上で今回のタイトル戦に登場してきた。やはり凄い人だと思う。このまま二冠、三冠と前進して欲しいと思います。勝ってもおごっている様子がなく、発した言葉は「将棋は難しい」ですから。人柄も良い。

相撲も観客を入れて始まった。日曜日には5時過ぎから見ましたが、「あれだけまばらなら大丈夫だろう」と思いました。観客同士でもかなり離れている。トイレの混み具合までは分かりませんが。協会も専門家の助言を入れてかなり徹底的に体制を整えたようです。一番面白かった相撲は鶴竜と遠藤の取り組み。何しろ「決まり手なし」で「(鶴竜の)腰砕け」という結果が。遠藤はちょっと足を引いたが、直接的には何もしていない。鶴竜の右足が空振りして転んだ。なので「決めていない」から「決まり手なし」。鶴竜は取り組み後に「一人相撲をとってしまった」と。笑えた。

「腰砕け」は私達が日常的に使う言葉ですが、「あれ、そもそも相撲用語」と思い調べたら、そうでした。「相撲で相手が技を仕掛けていないのに、体勢を崩してしまった時に用いられる」と書いてあった。本当に勉強になる。勝った遠藤が珍しく長くインタビューで被災地の方との縁について喋っていて、それも興味深かった。彼があれほど長く喋るのは珍しい。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》